

## ドイツ・イギリスの温泉保養都市を訪ねて

－ 日本の温泉保養都市との比較を通して －

金田 啓 珠\*

### 1 教材研究をしながら出てきた疑問点

昨年度秋の高等学校地理Aの「生活圏の諸課題の地理的考察」の単元で、山形県内の温泉保養都市を題材とした。その際に、ドイツとイギリスの温泉保養都市との比較研究を行った。地元の温泉保養都市とは、山形県上山市にある上山温泉であり（図1）、ドイツは南西部のシュヴァルツヴァルト（黒い森）の西麓に位置するバートクロツインゲン（図2）、イギリスは南西部にあるバース（バス）である（図2）。

比較研究の課題は、「上山市が温泉保養都市の視察に行くのは、どこかいいか」というものであった。国内外の代表的な温泉保養都市であり、首都や大都市からの位置関係なども考慮して都市を選択した。なお、国内の比較都市として、富山県の宇奈月温泉を選んだので、授業では、上山温泉と4都市について、4つの視点から比較検討した。4つの視点とは、上山市からの移動距離、首都や大都市からの移動距離、温泉保養都市としてのオリジナリティ、景観、自然環境への配慮はどうかについてである。授業は、4都市別のグループに分かれて比較検討を行った。しかし、筆者自身の教材研究が十分ではなく、上山温泉と比較するに値する都市なのかどうかという不安を抱えたままの授業実践であった。

そこで、その後実際に訪れてみて、比較都市の題材として適切であったかを再検討することにした。さらに、授業で扱う際の社会科情報として提供したい。

ドイツの巡検では、北部のエルベ川の三角江（エスチュアリー）に発展した大貿易港ハンブルク～ベルリン～ボン～フライブルク～ミュンヘンの行程を、主にドイツの高速鉄道であるICEを利用して移動した。また、イギリスでは、ロンドンを拠点として、日帰りバース（バス）への1日巡検を行った。なお、巡検に行っていない宇奈月温泉については、今回記せなかったが、機会を見て訪れたい。

したがって、この報告では、授業の題材として扱った上山温泉、実際に訪問したドイツのバートクロツインゲン（2017年3月）、イギリスのバース（2017年8月）について記すこととする。

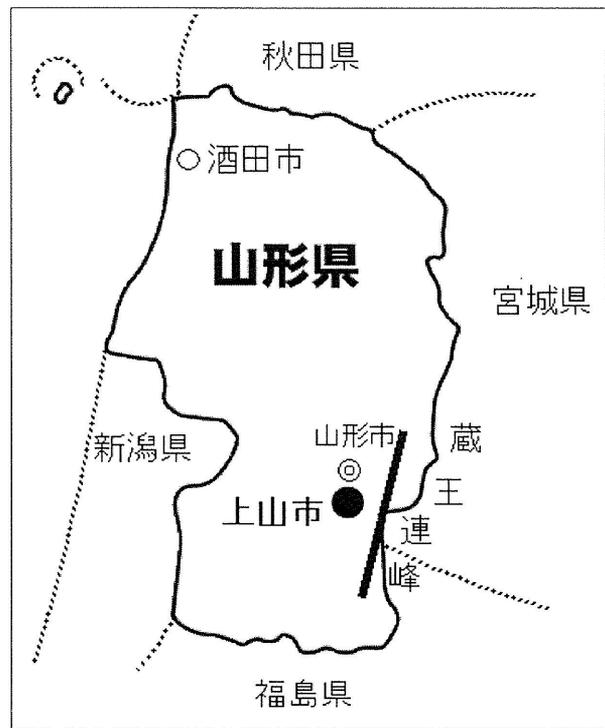


図1 上山市の位置（筆者作成）



図2 バートクロツインゲンとバースの位置（筆者作成）

\*山形県立長井高等学校 / 山形大学教職大学院

## 2 ドイツの温泉保養都市・バートクロツィンゲン

バートクロツィンゲンは、山形県上山温泉がモデルにしている都市の一つである。アクセスは、国際空港のあるフランクフルトからフライブルクまで、高速鉄道ICEで約二時間半、フライブルクから普通列車に乗り換えて約20分を要し、電車だと直通で行けないという不便さがあった。

今回の訪問では、環境モデル都市フライブルクを拠点として訪問した。なお、フライブルクに向かうドイツの高速鉄道ICEでは、ドイツの代表的な温泉保養都市である「バーデン・バーデン」を通過した。バートクロツィンゲンは、フライブルクから普通列車で20分ほどであり、本数も多く、通勤・通学者が多いフライブルクのベッドタウンであることがわかった。

筆者が今回宿泊したのは、バートクロツィンゲンの温泉保養施設が集まる市の西部であった。宿泊したホテルは、日本円にして1泊2食付きで1万円程度、十分な広さのある部屋と設備で清潔であり、手頃な料金であった。エリアには、温泉施設だけでなく、医療施設や長期滞在用のマンション、屋外テラスレストランや主に夏場に楽しむ屋外観劇場などが集まっていた(写真1)。市内にある最大の温泉施設を訪れたのだが、平日の午後であるにも関わらず、大型無料駐車場はほぼ満車状態であった。施設を利用するのは、体に障害を持つ人びとが多いようであった。ドイツの温泉保養施設は、医療と一体化しているのだ。



写真1 バートクロツィンゲン市のクアハウス

緑豊かな公園の中にある。レストランやコンサートホールを備えている。屋内外でクラシックコンサートが一年中、開かれている。

(2017年3月 筆者撮影)

## 3 イギリスの温泉保養都市・バース (バス)

バースは、バス(温泉)の語源であり、またローマ人が建設した歴史的温泉都市としても知られている。

統一感のある街並みとローマンバスなどの歴史的建造物が、世界遺産に登録されている。近くには、同じく世界遺産に登録されたストーンヘンジがある。バースは、ロンドン北西部のパディントン駅から電車で約1時間半と近いのだが、今回は車で訪れた。バースは、美しい田園風景で知られるコッツウォルズ丘陵の南部に位置する。車は緩やかな起伏があるカンターベリー平原を、バースに向かって丘陵地帯をゆっくりと昇っていく。やがて、斜面にへばりつくように立ち並ぶ紫色の建物が見えてくる。これがバースの街並みの外観である(写真2)。授業で扱った時は実感しなかったのだが、ドイツのバートクロツィンゲンもシュヴァルツバルト(黒い森)の麓に位置するし、上山温泉も蔵王連峰の麓に位置する。地形的な共通項を、再認識した瞬間であった。日本人ガイドによると、エリザベス女王は、この付近を電車で通過する際にカーテンを閉めてしまうのだという。それは、イタリア風の街並みが気に入らないから、という話であった。

バース市街は、8月のバカンス期ということもあり、国内外の多くの観光客で賑わっていた。街の中央部にある広場に面した「ローマンバス」は、見学者で長蛇の列であった。

今回は、残念ながらバースに滞在できなかったのだが、ロンドンからのアクセスの良さ、歩いて回れるぐらいの街の規模、景観の美しさ等から、次回はゆっくり滞在して、歴史的温泉保養都市としての街の見所や雰囲気存分に味わいたい。



写真2 バースの街並み

丘陵地帯にへばりつくように、うす紫色に統一された建物が立ち並ぶ。

(2017年8月 筆者撮影)

## 4 日本の温泉保養都市・山形県上山温泉

上山温泉(写真3)のある山形県上市市は、県庁所在地である山形市の南部に位置し、山形市へ通勤・通学者を送り込むベッドタウンとしての機能を持つ。「山形新幹線つばさ」を利用すれば、東京から約2時間半の所要時間である。上市市は、歴史都市・温泉都

市・城下町という3つの観光としての側面がある。

また、医師で歌人であった斎藤茂吉は上山市の出身で、茂吉がドイツに医学留学したことから、上山市はドイツ南部のドナウエッシンゲン市と友好都市となっている。上山市とドナウエッシンゲン市との人的交流が盛んになる中で、ドイツ式の「気候性地形療法<sup>1)</sup>」を取り入れたクアオルトが目されるようになった。

現在は、上山市が全面的にバックアップする形で、ドイツの温泉保養都市をモデルとしたクアオルト事業に力を入れている。クアオルトとは、ドイツ語で健康保養地、療養地の意味である。上山市では、平成20・21年度内閣府の「地方の元気再生事業」の採択を受け、市民の健康増進と交流人口の拡大による地域活性化を目的として「上山型クアオルト事業」を導入した。ただし、ドイツのように医療機関が入って、医師の診断に従って温泉に入りリハビリテーションを行い、医療保険が適用されるというものではないが、山歩きなどのウォーキングをして温泉に入り、地元で採れた食材を食べる、というものである。筆者も3回ほどクアオルト体験をした(写真4)。クアオルト体験ツアーには、必ず専門のガイドがつき、景観や地形の説明に加えて、ウォーキングの際の体のケア(脈の測定やウォーキング後のストレッチなど)も行ってくれる。筆者が利用した3回のうち2回は「早朝ウォーキング」というコースで、初めて会ったばかりの地元の方や東京に本社のある企業の健康促進部担当の方とクアオルトの散策コースを歩いた。1時間半ウォーキングを共にし、新鮮な空気を吸い込み、語らうことで、終わりごろにはすっかり打ち解け合っていた。

ドイツの温泉保養都市では、医療的側面の強調と娯楽施設の完備という面が強かったが、上山市のクアオルトは、上山市だけでなく山形県全体で「高齢化・過疎化」という地域の課題を抱えているだけに、高齢者を中心としたゆるやかな交流の場が、無償で提供されている場だと感じた。上山市が直面している課題としては、少子高齢化と医療費の高騰がある。

上山市のクアオルト事業の課題としては「文化的側面」、特に娯楽施設の充実が課題である。旅館単位でのジャズコンサートやクラシックコンサートは企画されているものの、宿泊客だけでなく市民や近隣に住む人々も気軽にコンサートに来れるような規模と設備の整ったホールがあると、さらに温泉保養都市としての上山の機能も広がりを持つであろう。また、市のクアオルト担当者のお話では、クアオルトウォーキングの参加者が、上山温泉の宿泊客や市内の高齢者のリピーターが中心で、若年層の参加者が少ないということであった。また、県外へのアピールもまだまだ足りないという話であった。20代～50代の働き盛りの世代は、忙しく関心

も低いのは仕方ないが、その年齢層に余暇の過ごし方の一つとして、いかにアピールしていくかが課題であるとのことであった。市内の小学校では、地域学習の中で取り上げたり、親子行事で参加する中で、地域資源の理解に一役買っているとのことであった。



写真3 上山温泉の一つ「葉山温泉」

緩やかな丘陵地に温泉街が立ち並ぶ。

(2016年10月 筆者撮影)



写真4 上山温泉のクアオルトの散策コース

現在5コースある。冬場も「かんじき」を履いて、蔵王高原を散策するコースもある。

(2016年11月 筆者撮影)

## 5 おわりに

今回、山形県の温泉保養都市である上山市との比較で扱ったバートクロツィンゲンとバースを訪れてみて、3都市とも山の麓や丘陵地帯に位置しているということに改めて実感した。このことは、温泉が湧き出る地形的条件、景観に配慮した街づくり、夏の保養地としての役割、といった条件が共通点として考えられる。

複数の都市や地域の比較を扱う授業では、可能な限り、地理教員として巡検を行い、教材に反映していく

ことの大切さを痛感した。たとえ、巡検できなくても、地図帳や電子地図を用いて、地形を捉えることは可能である。俯瞰してその地域を捉えること、大小さまざまなスケールで地域を捉えることを、今後とも大切にしていきたい。

また、教材化するにあたり、比較地域の共通点と相違点を明らかにすることが大切であることがわかった。教師自身がその点を意識しながら、課題や資料を作成しないと、焦点がぼやけてしまう。今回提示した課題について見れば、上山市と比較検討した3都市（バートクロツインゲン・バース・宇奈月温泉）について、自然環境と社会環境の二観点からの共通点と相違点を明らかにし整理してから、授業用の比較資料を作成する必要があった。

さらに、バートクロツインゲンとバースについては、再度訪問して、常住人口や訪問客の推移、行政の取り組みについてなどの調査を行う必要があると痛感している。

最後に、上山市内の景観とバートクロツインゲンの景観が似ていることにも気づいたので、その景観写真を載せたい。両都市に共通しているのは、景観だけでなく、丘陵地帯の緩やかな斜面を利用したブドウ栽培である。地元産のワインが、両都市の特産品となっており、景観とともに食の共通点も見出すことができた（写真5、写真6）。

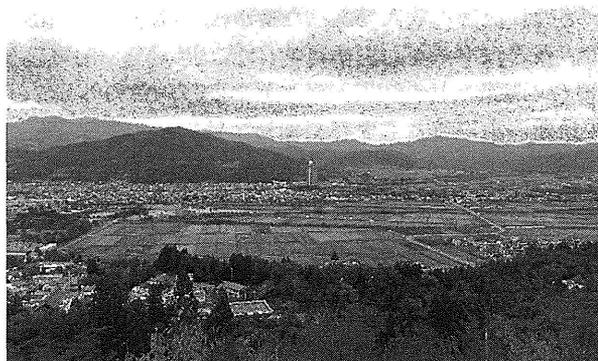


写真5 上山の街並み  
蔵王山西麓にあり、田園風景が広がる。  
(2016年10月 筆者撮影)



写真6 バートクロツインゲンの街並み  
シュヴァルツバルトの西麓にあり、田園風景が広がる。  
(2017年3月 筆者撮影)

## 註

- 1) 「気候性地形療法」とは、クアオルトのウォーキングで活用されており、ドイツでは治療として実施される運動療法の一つ。創始者は、ドイツのミュンヘン大学アンゲラ・シュー教授である。野山の地形や気候を活用し、自分の体力に合った歩行スピードで歩き、過度な負担がないか、常に心拍数でチェックする。冷気と風、太陽光線等の気候要素を活用し、森や山の傾斜地を歩くことで持久力を強化する。

## 参考文献

- 阿岸祐幸、飯島裕一（2006）『ヨーロッパの温泉保養都市を歩く』岩波書店
- バートクロツインゲン・ツーリスト・インフォメーション（2017）『バートクロツインゲン ドイツ、フランス、スイス三国の国境の交わる場所』バートクロツインゲン市
- 小関信行、アンゲラ・シュー（2012）『クアオルト入門 気候療法・気候性地形療法入門 ～ドイツから学ぶ温泉地再生のまちづくり～』書肆犀